八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡

国の史跡に指定

平成26年3月18日、古麓城跡、麦島城跡、八代城跡と平山瓦窯跡が「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」として国指定史跡となりました。「八代城跡群」は市として初めての国指定史跡で、複数の城跡をひとつにまとめて指定することは、県内で初めてです。

空から見た古麓城跡（北西側から撮影）

南東側から見た相良時代の古麓城の想像図（人吉市教育委員会作成）

城の姿が一変

もともと城には石垣も、天守も、瓦葺きの建物もなく、山の頂上に築かれた土造りのとても簡素なもので、戦時にのみ使われるものでした（中世城郭）。

ところが、織田信長の安土城によって、城の姿が一変します。織田信長、豊臣秀吉とその家臣たちは、港の近くに城を築くようになります。城は高い石垣で守られ、中心には壮麗な天守がそびえるようになりました（織豊系城郭）。江戸時代になると、城は港から少し離れた平野の中心部に造られるようになります（近世城郭）。

中世城郭から近世城郭への移り変わりは、築城技術の発展に伴い行われました。高い石垣を積むことができるようになったため、攻められにくい山頂に城を造る必要がなくなり、地形に左右されることのない平地に城を築くようになりました。このような城の立地と構造の移り変わりを、「八代城跡群」ではわずか半径約三キロメートルの範囲で、全て見ることができます。

約380年ぶりに姿を現した 麦島城跡の小天守石垣（平成15年度、西側から撮影）

空から見た八代城跡（東側から撮影。写真中央が本丸跡、右側が北の丸跡）

重要拠点だった八代

どうして八代には、中世山城から近世城郭までがそろっているのでしょうか。

古来より、八代は水陸の交通の拠点となる場所であり、権力者や大名にとって大変重要な場所でした。その八代を守るためには、いつの時代であっても城を造る必要があったのです。

八代城の移り変わり

「八代城」と呼ばれた城は3つあります。古麓城、麦島城、八代城です。

古麓城は、1334年頃に名和氏が築いた山城です。この古麓城を中心に、名和氏と相良氏との間で八代をめぐる争いが何年も続き、相良氏が城主となりました。しかし、相良氏は薩摩から勢力を伸ばしてきた島津氏に降り、古麓城は島津氏の城となりました。1587年、その島津氏を攻めるために九州を訪れていた豊臣秀吉は、4日間古麓城に滞在し、その間にキリスト教の宣教師（ルイス・フロイス）と面会しました。

麦島城は、1588年にキリシタン大名の小西行長が築いた城で、九州最古の織豊系城郭の一つです。関ヶ原の戦い後、麦島城は加藤清正の城となりました。1615年に「元和の一国一城令」が出された時も麦島城は特別に残され、肥後国は全国でも珍しい熊本城と麦島城の一国二城となりました。しかし、1619年の地震で、麦島城は倒壊。市が行なった発掘調査では、行長が朝鮮半島から持ち帰った瓦や金箔を貼った瓦、地震で倒れた櫓などが相次いで発見されました。

八代城は、麦島城が地震で倒れたために新しく造られた城です。城主が加藤氏から細川氏に代わった後は、細川三斎（忠興）が城に入り、北の丸（現松井神社境内）に茶室と庭園を整備しました。三斎が亡くなった後は、代々松井氏が城主を務め、城下町八代の基礎を築きました。

平山瓦窯跡は、加藤時代の麦島城の瓦を焼いた窯の跡です。平成14年度に整備されました。

今後も、市と市教育委員会は、八代の宝である国指定史跡「八代城跡群」を生かしたまちづくりを進めます。

八代城本丸跡の入口（東側から撮影）

整備された平山瓦窯跡（北側から撮影）

八代城跡群国指定記念

「八代城の魅力を伝える ガイド養成講座」受講者募集

国指定史跡「八代城跡群」の魅力・見どころを、八代を訪れる観光客や未来を担う子どもたちに伝えてみたいと思いませんか？５月末から月２回(計10回程度)の野外研修を経て、来年２月の「城下町やつしろのお雛祭り」でガイドデビューを目指します。

◎募集定員：10人

◎応募要件：5回以上受講が可能で、修了後、ガイド活動できる人

【第１回目】

５月31日㈯　午前９時～正午

八代城本丸（八代宮参道橋）集合

八代城本丸跡、二の丸跡、三の丸跡巡り

【第２回目以降の予定】

② ６月　７日㈯：八代城北の丸・松浜軒

③ ６月21日㈯：城下町（薩摩街道）

④ ７月　５日㈯：城下町（お寺巡り）

⑤ ７月19日㈯：麦島城跡

⑥10月11日㈯：古麓城跡（春光寺周辺）

⑦10月25日㈯：古麓城跡（八代神社周辺）

⑧11月16日㈰：妙見祭笠鉾組立

⑨⑩２月：おさらい、ガイドデビュー

【申込・問合せ】

申込締切：**5月30日㈮**

文化まちづくり課☎３３－４５３３